



四国中央紙フォーラム2018

参加費無料
事前登録要

四国中央市の産業を象徴するイベントである「紙まつり」も、はや41回を数えるまでとなりました。これも偏に市民の皆様並びに関係者の方々のご支援・ご協力の賜物と感謝申し上げます。

将来の更なる発展を目指し「四国中央市の紙産業を考える会」等で今後の方向性を検討した結果、2012年度より企業の祭典（四国中央紙フォーラム）・市民の祭典（四国中央紙まつり）・学生の祭典（書道パフォーマンス甲子園）を3本柱とし、「紙國の祭典」として取り組むこととなりました。

本年度もその一環として、紙関連産業の企業従事者等を対象にその見識を高めることを目的に『四国中央紙フォーラム2018』を開催いたしますので、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

開催要領

日時：平成30年7月24日（火）13時30分～16時50分

会場：愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター 研究交流棟 2階研修室
四国中央市妻鳥町乙127 TEL：0896-58-2144

内容：裏面参照

定員：200名程度（先着順・事前登録が必要です）

※ 登録完了後、参加証をお送りいたしますので、当日ご持参下さい。

参加費：無料

主催：四国中央紙フォーラム2018実行委員会（以下の10団体で組織しています）

四国中央商工会議所・伊予紙商組合・伊予水引金封協同組合・公益社団法人愛媛県紙パルプ工業会
川之江紙商組合・株式会社紙業会館・公益社団法人法皇青年会議所・愛媛大学紙産業イノベーション
愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター・四国中央市（順不同）

<申込方法&締切>

裏面申込書に必要事項をご記入の上、FAX・郵送又はメールにてお申込下さい。

平成30年7月17日（火）必着

※申込み多数の場合は、締切前でもお断りする場合がございますので悪しからずご了承下さい。

<申込・問合せ先>

四国中央紙フォーラム2018実行委員会

事務局：愛媛県紙パルプ工業会

（担当：森川・石川）

〒799-0101 四国中央市川之江町4084-1

TEL：0896-58-2055

FAX：0896-58-6240

E-mail：info@e-kami.or.jp

講演①『伊勢型紙 和紙が支える伝統文化』

13:35~15:05 (90)

文化庁文化財部伝統文化課 文化財調査官 生田 ゆき 氏

「伊勢型紙」は、三重県鈴鹿市の伝統工芸品です。和紙を柿渋で貼り合わせて乾燥させた「型地紙」に、専用の彫刻刀で多種多彩な文様を彫り抜いたものです。着物や手ぬぐいなどの図柄を染めるのに用いられる用具として発達してきましたが、近年はその図柄の斬新さが注目を集めて、静かなブームとなっています。

この講演では、和紙が支える伝統文化の一例として「伊勢型紙」を取り上げ、和紙の特性がどのように活用されているかを、ご紹介します。また、海外の美術館、博物館で保管されている型紙調査の事例を引きながら、紙を用いた伝統工芸の、新たな展開についても見ていきます。講演中は、写真や動画を使いながら、工芸品の制作や、文化財調査の現場の様子についても、ご覧いただく予定です。

<休憩 10分間>

講演②『紙産業のイノベーションの可能性と課題 ~紙産業振興ビジョンより~』

15:15~16:45 (90)

松山大学 名誉教授 鈴木 茂 氏

29年度に四国中央紙産業振興協議会が策定した「紙産業振興ビジョン」によると、紙産業は厳しい環境下であり、電子化、人口減、人材不足、国際競争の激化であり、国内生産量は減少している。他方、従来のビジネスモデルを転換して、新しい市場環境の中で紙産業の発展の可能性も開けつつある。鉄鋼よりも軽量で強度が勝り、「未来の紙」とも言われるセルロースナノファイバー（CNF）が実用化段階を迎えており、紙産業は大きな構造的転換の可能性を秘めている。他産業に比べてグローバル化が遅れていたが、紙産業も成長市場であるアジア市場に進出する動きが強まっている。CNFをはじめ機能性新素材を活用した高付加価値製品開発やグローバル化によって新しい成長軌道に乗る可能性を高まっている。紙産業のイノベーションの可能性を確実なものにするには、研究教育機能の強化、グローバルビジネスの拠点性の強化、若者に魅力的な産業に転換することが課題である。

『四国中央紙フォーラム2018』参加申込書

平成30年 月 日

事業所名 (団体名)	TEL/ FAX	/
	E-mail	
所在地 参加証送付先	〒	
参加者氏名		所属役職